# 勝浦刑事さんへ

地球の星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
勝浦刑事さんへ

【Ｎコード】
Ｎ５０７６Ｊ

【作者名】
地球の星

【あらすじ】
あれから2ヵ月後、勝浦刑事のもとに一通の手紙が届いた。
送り主は、かつて自分が保護したことのある沙織という少女だった。
手紙の中には勝浦刑事に対する感謝の気持ちや沙織のその後の日々、父親の身に起こったこと、
マスコミやインターネット上での中傷に対する怒り、そして彼女の決意がつづられていた。

勝浦刑事さんへ

こんにちは。船村沙織です。お久しぶりです。

あれからもう2ヶ月が過ぎました。

以前はまさにこの世の地獄を見たような状況でしたが、そんな中で私をいく度となく守っていただきまして、本当にありがとうございました。

今考えれば、あの時勝浦刑事さんがいなかったら私は世の中の理不尽さに絶望し、もしかしたら私もお母さんの所に行っていたかもしれません。

誰も私を守ってくれない状況の中で、私を守ってくれて本当にありがとうございました。

この恩は一生忘れません。

さらには、精神科医の尾上さんにも大変お世話になりました。

私から直接お礼を言うことは出来ませんが、この場を借りてお礼を申し上げます。

もし尾上さんに会う機会がありましたら、ぜひ伝えてください。

また、私達が西伊豆に行った時には、私が「刑事さんも困ればいいんだ！」と思ったばかりに、迷惑をかけて本当にごめんなさい。

しばらく連絡を取ることもないまま過ごしてきましたが、そちらはいかがお過ごしですか？

家族との仲はなおってきましたでしょうか？

休暇をとって、家族水いらずの時を過ごすことは出来ましたでしょうか？

差しさわりがなければ、私にも教えていただけるとうれしいです。

今回、この手紙を出した理由は私のその後について話そうと思っ

たからです
私は今、西伊豆のペンションで、本庄さんという夫婦と一緒に暮らしています。
私の名字は戸籍の上では船村ですが、人前では本庄と名乗っています。
一時期は西伊豆にある高校に進学したいと思った時期もありましたが、色々考えた末に進学はあきらめました。
これからは勉強は自分で買うつもりです。
教科書などは自分でやるつもりです。
分からないことがあれば本庄さんに質問しようと思います。
正直、高校に行くことが出来ないのはつらいです。
学校では登校拒否など色々なトラブルを聞きますが、私が思うには学校に行きたくても行くことが出来ず、友達を作ることも出来ないまま過ごすことが一番つらいと思います。
正直、私の置かれた状況は今でもつらいです。
でも、本庄さん夫妻は私を信じてくれています。
私はこの人達のために精一杯の恩返しをしたいと思うようになり、ここに住み込みで働くことを決めました。
今では身重な奥さんの代わりに私が家事仕事を担当しています。
やることと言えば、家の食事の支度や洗たく、掃除、ふとん干しなどが主です。
また、最近は客室の掃除やふとんの交換などもやるようになりました。
最初はなかなか作業がうまく出来ずに悔しい思いもしましたが、今では少しずつ慣れてきたせいか、だいぶ自分で作業が出来るようになってきました。
私に居場所を与えてくれた本庄さん夫妻には本当に頭が上がらない思いです。
私はこの人達に毎日感謝をしながら過ごしています。
そしてお母さんを思い出したり、お兄ちゃんのせいで悲しい最期

をとげなければならなかったお子さん達のめい福を祈ったりしながら、毎日私が住んでいた家のほうを向いて手を合わせています。

私はその後、三島刑事さんに連れられて、一度だけかつて住んでいた家に戻る機会がありました。

家にたどり着くまでの間には、また以前のように大勢のマスコミに付きまとわれ、命の危険を感じながら向かうことになるのではないかという恐怖を感じました。

正直足が震えましたが、三島刑事さんは

「大丈夫だ。事態はすっかりおさまっているから、胸を張って歩けばいい。」

と言って、私を励ましてくれました。

結果的には何も起こらず、無事に家に入ることが出来ました。

家ではお父さんが一人で住んでいました。

ストレスのためでしょうか、顔はやつれていて、まるで一気に１０歳くらい年取ったようでした。

お父さんは私を見ると、抑えていた気持ちをこらえきれなくなったのか、途端に泣き出して

「沙織、お父さんのせいでお前をこんな目にあわせてしまって、本当にごめんな…。本当に、ごめんな…。」

と言いながら、私に抱きついてきました。

それを聞いて、私の目にも涙があふれてきました。

私は子供のように泣きじゃくるお父さんに何を言えばいいのか言葉が浮かばず、悩みました。

しかし浜辺で刑事さんが言ってくれた「お父さんとお兄さんを守ってやれ。」という言葉を思い出し、それを打ち明けてみました。

その言葉が心に響いたのでしょうか、お父さんはまたさらに泣き出して

「そうか…、こんな私にそんな言葉をかけてくれる人がいるのか？こんな父親失格の私に…。」

と言い出しました。
私はそれ以上かける言葉が思い浮かばず、ただその姿を見つめることしか出来ませんでした。
でも、お父さんに生きる勇気を与えることは出来たと思いました。
後で気がついたことですが、人は食べ物だけで生かされるのではなく、言葉によっても生かされるということを実感しました。
家ではお母さんの遺影が飾られていました。
お母さんは事件の起きる前と変わらない表情のまま、じっと私を見つめていました。
正直、今にも飛び出してきて私を抱きしめるのではないかという気さえ感じました。
しかし、いまだにお葬式は行われていません。
お父さんは仕事を失い、生活保護で生活せざるを得ない状況です。
また、被害者遺族へせめてもの償いにと、お金を送り続けています。
そのため、金銭的には非常に厳しく、とても今の状況ではお葬式を行える状況ではないそうです。
あまりにもむごい形で最期をむかえなければならなかったうえに、天国への旅立ちの儀式さえも行わせてもらえなかったお母さんは、正直かわいそうでなりません。
それでもお父さんは、時期が来たらたった2人だけでもいいからお葬式くらいはやりたいと言っていました。

お父さんから聞いた話では、お父さんは事件が起きてからしばらく後に被害者家族を訪れて謝罪したそうです。
行った時には殺されるんじゃないかというくらい緊張したそうです。
おそらく、私が家に行ったときよりももっと、何倍も怖かったと思います。
案の定、ご家族の方からは相当いろんなことを言われました。

家のご主人は「あんたが悪いんだ！貴様が子供なんか生まなければうちの子は殺されなくてすんだんだ！！」と言って、何度もお父さんの顔を殴ってきました。
奥さんはそれを見ながらかたわらで泣き崩れながら「子供達を返して！返して！！お願いだから返してーーー！！！」と叫んでいたそうです。
それでもお父さんは現実からは逃げることなく、何度も何度も謝罪をしたそうです。
そんな大きな怒号（どごう）や泣き叫ぶ声、殴る音、そして謝罪の声がまわりに響いていたのでしょうか、やがて近所の人達が集まってきて騒動になったそうです。
彼らは「何があったんだ！」「とにかく落ち着いて！」と言いながら事態を収束させようとしましたが、ご主人はそれを振り切るような形で
「止めるな！こいつは人殺しの父親なんだぞ！こんな奴、おれの手で地獄に送り込んでやる！！」
と周りの人にまで手を伸ばしながら叫んでいました。
一方、すでに顔中が腫れ上がり、鼻血をだらだら流していたお父さんは近所の人達に抱えられながらその場に倒れ込んでしまいました。
その時にはボコボコにノックアウトされたボクサーのように、もう立ち上がることも出来ない状態だったそうです。
そして、救急車で病院に運ばれて1週間ほど入院しました。
私が会いに行った時にはもう腫れもひいていましたが、受けたショックはまだ相当深そうでした。
正直、謝罪に行って果たして良かったのだろうかと何度も自問自答を繰り返したのではないかと思います。
でも、勇気を振り絞って謝罪に行ってくれたお父さんを私はすごいと思っています。
私はいつの日かきっと許してくれるから、絶対に謝りに行って良

かったはずよとお父さんに言いました。
本当に許してくれるのかは私にも分かりませんが、きっといつの日か分かり合える日が来ると私は信じています。
相手のご家族の方も、お父さんが謝りに行った時にはあのような行動に出ましたが、今では気持ちにも少しずつ変化が出てきているのではないかと私は思います。
私は家に行った時、せめて1泊だけでもしたかったのですが、私の身に危険が及ぶことを恐れたお父さんがそれを許してくれず、結局私は三島刑事さんに連れられてまたこちらに引き返すことになりました。

お父さんは刑務所に出向いて、お兄ちゃんに面会もしたそうです。
お兄ちゃんは取り返しのつかないことをしてしまったことをずっと後悔し、自分を責め続けていました。
誰かに助けを求めたかったのに、それがこんな行動につながってしまったことを激しく悔やんでいました。
お母さんが亡くなったことを聞かされると、お兄ちゃんは途端に号泣し、
「おれのせいでお母さんを殺してしまった！全部おれのせいだ！全部おれが悪いんだ！」
と叫んでいました。
さらには逮捕された後に私が色々な迫害を受けたことを知ると、
「沙織…。…ごめん…。」
と、やはり泣きながら言ったそうです。
その光景はお父さんだけでなく、お父さんのかたわらにいた刑事さんにとっても心が痛むものだったようです。
もし刑務所に入る時にズボンのベルトをはめていたら、お兄ちゃんはそのベルトで自殺をしてしまったかもしれません。
聞いた話では、もうすぐお兄ちゃんの裁判が始まるそうです。
裁判ではお父さんが証言をする予定だそうです。

そして私が浜辺で勝浦刑事さんに話したことをふまえた上で、何とかお兄ちゃんの罪を軽くしてもらうための努力をしようとしているということだそうです。
ただ、お兄ちゃんの裁判は裁判員裁判になるかもしれないと聞きました。
もしそうなれば、必要以上に世間の大きな注目を浴びてしまうかもしれません。
一般の人達が参加するという新しい形の裁判ということは画期的なことでいいかもしれませんが、また私やお父さんが迫害を受けるような気がして、私は嫌です。
私としては、お兄ちゃんの裁判はあまり注目されることもなくひっそりと行われてほしいと願っています。

現在私はあまり外を歩くことはありませんが、気分転換のために本庄さん夫妻と一緒に近所を散歩することはあります。
最初は怖いと思いましたが、最近は抵抗感も少しずつなくなってきました。
しかし、外を歩いている人がカメラや携帯電話を使っている光景を見ると、条件反射でビクッと反応してしまいます。
今でも私の姿を撮影してインターネット上に公開するなどして、私をさらし者にするのではないかと思ってしまいます。
この前は私に「すみません。あの景色をバックに写真を撮ってもらえますか？」と言ってきた人がいました。
その人は私が犯罪者の妹ということを知らなかったようでした。
多分、何気なく私に問いかけてきただけだろうと思います。
しかし私は一体これから何をされるんだろうと思い、足が震えました。
そしてその場から逃げ出したくなりました。
その時にはだんなさんが快く撮影引き受けてくれたので事なきを得ましたが、もし私が一人で歩いている時だったらどうすればよか

ったのだろうと今でも思います。
さらし者という言葉で思い出したのですが、私をさらし者にした人達はその後どうなりましたでしょうか？
私としては逮捕されて刑罰を受けていることを望みたいです。
そして、その件に加担した達郎もどうなったのか知りたいです。
私が達郎に望むことはただ一つ。あんなことをしたなりの罰を受けることです。
もちろん達郎は大嫌いです。どうなったのかを知ったところで会いたいとも思いません。
顔を見るのも、顔を思い出すのも嫌です。

私は達郎も嫌いですが、マスコミはもっと嫌いです。
あるマスコミの人が言った「犯罪者の家族は迫害されて当然」という言葉は、思い出すだけで腹立たしくなります。
こんな人達の心無い言葉や行為によって私のお母さんは亡くなりました。
私は今でも、お母さんはマスコミに殺されたんだと信じています。そして、これからもこの気持ちは変わることはないでしょう。
世間の注目を集めるために事件を面白おかしく取り上げて視聴者の批判を集めさせ、誰かの人生を狂わせ、時には死に追いやるようなやり方は絶対に許せません。
人の命を何だと言いたいです。
そしてマスコミの人達は今日も誰かを執ように追い回してはその人を精神的に追い詰め、あげくの果てには死に追いやっているのではないかという気がします。
そして一つの事件が注目を浴びなくなると今度は次の事件に目をつけて、またその人達を追い詰めていくのではないかという気さえします。
もちろん、マスコミの人達にも家族がいることや愛する人がいることは私も理解しなければなりません。

それは分かっています。
しかしそれを考慮したとしてもやっぱりマスコミは大嫌いです。もう信じたくなんかありません。
いくら犯罪者の家族と言っても、私は何も悪いことをしたわけではありません。
そちらがもし「死んで償え！」と言うのなら、私からも言いたいことがあります。
「あなた達の言葉通り、お母さんは死にました。この責任をどう取ってくれるのですか？そちらがそう言うのであれば、もしマスコミの家族の人が犯罪者になったら、迫害されても文句はないですか？あなた達が死んで償ってくれるんですか？」と。
もちろん面と向かって言えるようなことではありませんが、私の心の中では思い出しただけでこれくらい気持ちが煮えたぎってしまいます。
これはインターネット上で迫害してきた人達に対しても同じです。あんた達も逮捕されてしまえと言いたいです。
事件が起きる以前から気になってはいたのですが、この度はっきりと言わせてもらうと、人を中傷する意見があまりにも多いです。
中には批判するべき記事ではないのに批判をする人がいます。
本当にこんなことをして何が楽しいのでしょうか。
たとえ冗談であったとしても、私はそんな人は嫌いです。
絶対にやめてほしいです。
もう一度言いますが、本当に逮捕されてほしいです。
現に、インターネットの掲示板に人を侮辱する書き込みをして逮捕されたという例があります。
正直、私は今後インターネットの掲示板を見たくはないです。
このせいでどれだけの人達が傷つき、あげくは命を絶とうとしたか、あるいは本当に絶ってしまったのかと思えてくるからです。
お世話になった人にこんな言葉を浴びせてしまって、本当にごめ

んなさい。
でも、勝浦刑事さんだからこそ私は自分の気持ちを正直に打ち明けてみたくなりました。
どうか勝浦刑事さんは私が一番頼りにしている人だということを理解してほしいです。

さて、今回の出来事を通じて一つ感じたことがあります。
それは不幸な出来事によって家族がめちゃくちゃになるということは決して珍しいではないということです。
このようなことはもしかしたら誰の身にも降りかかってくることかもしれません。
まして交通事故や通り魔事件などを含めれば、本当に誰の身にも降りかかってくることです。
交通死亡事故に目を向けた場合、日本国内では年間５０００人ほどの人が亡くなっています。
その中には自分には何の非もないのに、ただその場に居合わせたからというだけの理由で命を落とすことになった人も少なくないはずです。
そしてちょっとした不注意で、ある日突然人を死なせてしまった人というレッテルを背負った人達も少なくないはずです。
そう考えると、私のように突然家族を失い、深い悲しみの中をさまよう日々を送る人達が大勢いても不思議ではないはずです。
つまり自分には関係ないというわけではない。決して他人事ではないということです。
インターネットで他人を中傷した人も、次は我が身だと考えてほしいです。
自分が中傷され、誰も守ってくれない状況になったらどんな思いをするか考えてほしいです。
私はこれから機会があればそれを訴えていきたいです。
そして命の重みというものを人々に伝えていきたいです。

長くなりましたが、私は何とかがんばっています。
本庄さん夫妻は、いつも私に笑顔で接してくれています。
私がペンションの場所を公開してしまったせいで迷惑がかかったはずなのに、それでも笑顔で接してくれます。
まるで私を、亡くなったお子さんの生まれ変わりとして見てくれているようです。
私は、私をこんなにも必要としてくれるこの人達が大好きです。
これからは身重な本庄さんの奥さんの分まで働くことになるため、仕事の量がますます増えていきますが、きっと出来ると信じています。
たとえ大変なことがあっても、居場所を提供してくれた本庄さん夫妻のために私は一生懸命がんばりたいです。
そしてもし可能ならばお父さんを西伊豆に呼んで一緒に暮らしたいです。
さらに、もしお兄ちゃんが刑務所を出てきたら、やはりここに呼んで3人で暮らしたいです。
そして勝浦刑事さんがここの浜辺で言っていた「お父さんとお兄さんを守ってやれ。」という言葉を守ってみたいです。
そうやって暮らすことが、お母さんへの供養にもなると思います。
さらには亡くなられた被害者の人や、そのご遺族の方へのせめてもの償いになるのではないかとも思います。

世の中には理不尽なことがたくさんあります。
怒りや悲しみもたくさんあります。
でも、自分を必要としてくれる人がいる限り、私は精一杯生きていきます。
亡くなったお母さんのために、
お父さんとお兄ちゃんのために、
被害者家族の人への償いのために、

本庄さん夫妻のために、
そして何よりも生きることに絶望しそうになっている人達へ、生きる勇気を与えるために、
私は生きていきます。

船村沙織

## （後書き）

僕自身、この映画を見てとても心が痛みました。
そして心無い言葉や言動によって、私達が考えている以上に人が傷ついているということを感じずにはいられませんでした。
どうか、インターネット上で他人を中傷するようなことが減っていくことを切に願っています。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5076j/

---

勝浦刑事さんへ

2010年10月8日14時33分発行